

## 第2回「踊りを止めるな！」

日本舞踊坂東流師範 坂東扇太恵先生 坂東扇紫恵先生

継続することの大切さについて聞いてみました！

大正大学と大正大学の学生が、地域の方と連携して活動をするために必要なことは何かを探る連載「**おうだい3meets**」。第2回は鴨台盆踊りで、踊りの指導をいただいている坂東扇太恵先生と坂東扇紫恵先生に、今後の鴨台盆踊りを運営していく上で、どのようなことを継続して行けば良いかについて聞いてみました！

お話しいただいた人



坂東扇太恵先生

坂東扇太恵先生

趣味は自然に行つてのんびりすることと、良く車で多摩川方面まで行き、川辺を散歩すること。



坂東扇紫恵先生

坂東扇紫恵先生

趣味は映画鑑賞や音楽を聴くこと。今はコロナのため、なかなかいけません。旅行に行くことも好き。

インタビュアー



五十嵐

五十嵐泰一

仏教学部仏教学科4年

趣味は自転車で旅をすること、読書。

## 1. 盆踊りが始まってから現在に至るまで



鴨台盆踊りと関わることになったきっかけは何ですか？

2011年の東日本大震災のあと、亡くなった皆様をお慰めしたくて、何かできることはないかとなった時に、塩入先生(仏教学部仏教学科教授)が「御霊祭り」と称した盆踊りの開催を考えられたそうです。



坂東扇太恵先生

そこから、私たちは、巢鴨地蔵通り商店街振興組合が主催していた「巢鴨納涼盆踊り大会」の実績を買われて、塩入先生からお声を掛けていただき、指導、着付け、踊り手として参加をさせていただいたというのがきっかけなんですよ。



五十嵐

塩入先生と巢鴨地域のつながりがあったんですね！



坂東扇太恵先生

7月の盆踊りなので時期が早くてどうなんだろう？と最初は思ったけれど、初めの頃の鴨台盆踊りはシンプルであり、亡くなった方を供養できるようなどとても良い盆踊りだと思います。



五十嵐

盆踊りはもともと踊念仏からきているのですが、それに近い感じがしていますね。



坂東扇太恵先生

そこから先生主体の企画が始まっていったのですが、学生の自主的な企画もやろうということで、現在のように授業の一環としてやるようになりました。



五十嵐

学生主体の盆踊りになり、お客様として参加することになったと思うのですが、そのことに対し、昔のほうが良かったなと感じることはありますか？



坂東扇太恵先生

学生さんが、机の上の勉強だけではなく、授業の一環として企画、運営、それから集客、そういうことをやっているのは素晴らしいことだと思います。盆踊り当日2日間のためにここまでできるということはすごいこと。これを続けていってほしいです。



坂東扇紫恵先生

私もそう思います。例えば先生(扇太恵先生)が、スピーカの位置がおかしいのでは？ というと次の年には必ずなおっている。そのような土台がしっかりしているのは素晴らしいと思います。



五十嵐

ありがとうございます。  
盆踊りは少しずつ変化しているのですね。



インタビューの様子

## 2. 踊りを止めてはいけない！！



五十嵐

昨年、第10回鴨台盆踊りはオンラインによる開催だったのですが、他のお祭りや盆踊りはどうだったのですか？



坂東扇太恵先生

全部中止でした。オンラインでも盆踊りを開催するというのはとても貴重なことだと思います。担当の先生とサービラーニングを履修している学生はその分大変だったとおもいますが、成果はあったと思います。



五十嵐

無理と言わずにやり続けることが大切ですね。



坂東扇太恵先生

今年は大学に櫓は立ちますか？



立ちますよ！

(※インタビュー日はまだ櫓が立つ予定であったためそのまま記載させていただきました)



去年は稽古場がメインになっていましたが、学校に櫓が立っているシーンはインパクトがあってとてもいいですね。オンラインでも盆踊りをやめずにつなぐということはとても重要なこと！それを皆さんが繋いでいくんですよ。



責任重大ですね、、、私もつないでいけるように頑張っていきたいと思います！



何事もとにかく続けること、後輩につなげること。伝統って古いものを大事にしなければいけないけれど、そればかりやっているとつぶれてしまう。新しいこともやっていかないとですね。



どちらかに偏るのではなく、良いものは残しながら取り入れていくということですね。



昨年開催されたオンライン盆踊りの様子

3. 鴨台盆踊りをどのように発信していったら良いか



地域の方々に盆踊りを知ってもらうには、どうしたらいいと思いますか？



皆さんは各SNSを通じて発信していますよね？でも受け取る側がそれを開かなければ見ることはできないですよ。



確かに、、、その通りですね、、、。



例えば、1週間の授業の様子や、盆踊りの最新情報を町会の掲示板に張らせていただいたりしたらいいのでは？



私たちは今後どのような方に向けて発信をしていけばいいと思いますか？



6,700人を集客した一昨年の代（第9回）では、たしか盆踊りが好きな方々はお互いに連絡を取り合っていて、そのつながりはすごかったですよ。



SNSなどがあるから、調べればいくらでも出てくる。今年はどうにやるのか、どこでやるのかというのはみんな調べていますよ。いいねしなくても、見ている人は見てくれていると思いますよ。  
近隣だけだったら6,700人も集まらないと思います。



SNSの情報は皆さん見てくれていると思いますよ。あとはどれだけ地域の方を巻き込めるかですね。



そうですね！！



それはやはり、自分たちで町会などに足を運んで、ポスター掲示を行って地域の方々に見てもらうのが一番だと思います。



坂東扇紫恵先生

今年はこの日に開催します！たとえ実地で開催できなくても、オンラインでこの日に開催します！としっかり発信を続けることが大切だと思います。



五十嵐

私たち広報はこれからも、皆さんに鴨台盆踊りの情報を知ってもらえるように頑張って発信していきたいと思います。本日はありがとうございました！！



6,700人を集客した第9回鴨台盆踊り



この記事を作成する中で、「コロナウイルスを理由にして何事も中止にするのではなく、新たな形を見出して次につなげていくことが大切である」ということを学びました。

今年の鴨台盆踊りは、昨年できなかった櫓をたてることを一つの目標として準備を進めてきましたがその目標はかないませんでした。しかし私たち実行委員は踊りを止めることはありません。新たな形を見出し、次につなぐことを目標に頑張っていきたいと思います。

記事 人間学部 人間環境学科 3年 相良隼斗  
お話を聞いた日 2021年6月17日